

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。だんだん寒くなってきましたが、風邪などひいていませんか？さて、「東大日本史のみかた」の3回目となりました。前回に引き続き 2009 年の東大日本史の第3問を取り上げてお話をしていきたいと思います。今回の問題は江戸時代の日中関係についての問題です。さあ、1週間、しっかり問題を考えてみてください。

【2009年度 東京大学 文科前期 第3問】

江戸時代の日中関係にかかわる次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(ハ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 幕府は、1639年にポルトガル船の来航を禁止するに際して、主要な輸入品であった中国産品が他のルートによって確保できるかどうか、慎重な検討を重ねていた。
- (2) 幕府は、1685年に長崎での毎年の貿易総額を定め、1715年には、銅の輸出量にも上限を設けた。
- (3) 中国書籍は長崎に着くと、キリスト教に関係がないか調査された後、商人たちの手により全国に販売された。
- (4) 長崎には、黄檗宗を広めた隠元隆琦ばかりでなく、医術・詩文・絵画・書道などに通じた人物が、中国からしばしば来航していた。

設問

- A (1)の時期と(2)の時期以降とでは、中国との貿易品にどのような変化があったか。国内産業への影響も含め、3行以内で述べなさい。
- B 江戸時代の中国からの文化の流入には、どのような特徴があるか。2行以内で述べなさい。